

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	7名

年度		学 校 自 己 評 価		年度評価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<p><現状> 授業公開週間や教員研修を実施するなど、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成された。平成30年度から生徒用手帳「Shikidiary」を活用した学習の自己管理に取り組んでいる。</p> <p><課題> 新型コロナウイルスによる休校等に対応するため、ICTを活用した学習支援の充実が急務となっている。また、急速に進展する情報化社会を主体的に学び、生き抜く力の育成がより求められる。学習習慣の確立とともに、生徒の実態に即し、ICTを活用した授業の工夫・改善及び、より効率的、効果的な授業計画、実施が求められている。</p>	<p>①生徒一人一人が主体的に学ぶ学習支援体制の充実</p> <p>②生徒の「主体的、対話的な深い学び」を実現する授業改善への取組</p>	<p>①・プロジェクトチームを中心に、HP及びGoogleClassroomを活用した自宅学習の支援、個別指導のあり方を研究、実施 ・学年及び教務が連携し、「Shikidiary」を活用した学習習慣の確立及び、自己管理指導に取り組む（通年） ・新聞を活用し、社会的視点を醸成し学びに向かう態度を育成する。</p> <p>②・各教科が連携し、ジグソー法等を用いた授業改善に取り組む ・ICTを活用した授業改善をおこなう。 ・授業アンケートを活用し、授業者と評価者（生徒）双方から授業を改善する。（授業アンケートの実施10月） ・授業公開週間において教員相互で授業を見合い、授業改善について協議する。</p>	<p>①HP・GoogleClassroom活用状況 課題提示回数、動画配信状況 各教科、HR担任による手帳活用指導の状況 手帳通信発行状況 新聞の各教科における活用状況</p> <p>②ジグソー法等を用いた授業実践状況 ICT活用研修の実施状況、授業実践状況 授業アンケート実施状況及び結果 研究協議の実施状況</p>	<p>【ICTを活用し生徒が主体的に学ぶ学習支援体制を構築できた】 ・HP・GoogleClassroomを活用した課題の提示9教科のべ174回、学習動画配信149本 ・「Shikidiary」をSHR、総合的な探究の時間等で学習計画立案、情報整理、定期考査の振り返りに活用し目標意識向上につなげた。 ・授業に加え小論文指導等、進路指導においても新聞活用の取組みが広がってきている。</p> <p>【授業改善・充実に向け組織的に取り組んだ】 ・コロナ感染予防の観点からジグソー法をはじめとした対話形式の活動を自薦せざるを得なかった。 ・ICT活用研修3回実施 ・WEBを活用した研修会3回実施 ・ICT活用授業実践事例集作成 ・授業公開週間に合わせ県教委による授業研究支援訪問及び、授業研究研修会を実施 ・授業アンケートは各教科担当にて実施</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・今年度は新型コロナウイルスの影響により、行事予定の変更や授業確保、学習保障などの多くの課題に直面しながらも、GoogleClassroomをはじめとした学習支援ツールやICT環境の整備を進めることができた。手帳については、休校により4月当初に活用ガイドランスが実施できず、活用指導に課題が残った。 次年度は今年度の成果を定着、発展させていくために、今後のBYOD等の県教委によるICT環境の整備を踏まえ、運用に関するルールをつくり、ガイドラインを作成を進め、学習支援、授業改善に繋げていく。また、指導体制の整備を進め手帳活用を推進していく。</p>
2	<p><現状> 進路意識を高めるため、体系的な進路指導や手帳を活用したセルフマネジメント力の育成に取組んでいるが、夢の実現に向けた目的意識を持って学校生活を送っていない生徒もいる。</p> <p><課題> 進路意識を高めセルフマネジメント力を育成するために、生徒用手帳の更なる活用の工夫が必要である。また、保護者に向けた進路情報の発信の機会を増やし、更なる協働体制を築く必要がある。</p>	<p>①進路意識を高め、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を育成する。</p> <p>②保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。</p>	<p>①・志木高スピリット（立志・言志・続志）を常に学校全体で共有することにより、進路目標の明確化、日々の学習への目的意識向上に取り組む。 ・早期から計画的な準備・対策ができるよう、模試、補講等の指導体制を整える。 ・自習室、ICTの活用等、生徒の進路希望に応じ、学習習慣の確立に向けた支援を行う。</p> <p>②・保護者向けに進路情報を提供し、保護者の進路意識を高める。 ・生徒用手帳「Shikidiary」を三者面談に活用し、目標を明確化し、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。</p>	<p>①志木高スピリットを自覚している生徒の割合 模試の参加人数、補講開講数および参加者人数 自習室の活用状況 家庭学習（自学自習）時間の状況</p> <p>②保護者の学校行事等への参加状況 保護者向け進路行事実施状況（年2回以上） 進路情報の発信（HP、スマート連絡帳年5回以上、進路通信年2回） 三者面談におけるで手帳の活用状況 進路目標具体化の状況</p>	<p>【志木高スピリットを醸成し、教科、学年と連携した進路指導ができた】 ・模試参加者1年41名、2年63名、3年85名（前年全体計71名） ・夏季補講30講座のべ251名参加（前年度171名） ・3年生面接指導、小論文添削指導等を学年、進路指導部が連携して実施 ・早期、放課後の自習室における学習が定着してきた。 ・家庭学習1時間以上17.5%（前年度16.0%） ・「進路指導はよく行われている」と回答した生徒全体87.7%、3年生94.2% 3年生進路決定者9割以上</p> <p>【コロナ禍で制約が多い中、ICTを活用した連携に取り組んだ】 ・渉外・PTAと連携し進路行事をGoogleClassroomを活用して実施 ・三者面談及び6月9月の二者面談をきめ細かく実施、家庭と連携した進路目標の具体化を進めることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・進路指導に関する毎年の各行事は定着してきた。各学年でそれぞれの進路行事の目的を共有し、どのように生徒に働きかけるか、総合的な探究の時間、カリキュラムマネジメントも含め、教職員間の共通理解を図っていく必要がある。 次年度は模試・補講等をきっかりと自学自習の意識を高め、家庭学習時間の確保につなげる。また教務と連携し授業力向上の取組み、研修会の企画運営を行う。 また、コロナ禍の中、集会形式での保護者向け進路企画が実施できなかった。生徒向け情報発信も含め、HP、GoogleClassroom等の様々な媒体を活用した方法を研究し実施していく。</p>
3	<p><現状> 注意喚起や見守り指導により、落ち着いた学校生活は確保できているが、SNSによるトラブルや交通事故等の未然防止には至っていない。</p> <p><課題> 学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、学校生活に誇りを持たせるためには、生徒に自己有用感を持たせるとともに、学校行事の充実や部活動定着率の向上が必要である。</p>	<p>①事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>②生徒の自主的な取り組みを支援し、学校生活に自信を持たせる。</p>	<p>①・PTA、地域と連携するなど、校内外における交通安全指導を実施し交通マナーに取り組む。 ・携帯・スマホマナー教室の実施やポスターの掲示等によりSNSによるトラブルを防止を啓発する。 ・スクールカウンセラーを活用し、教育相談を充実させ、全職員の共通理解の下、個に応じた指導体制を作る。 ・探究プログラム委員会を中心に自他を尊重する心を育む教科横断的な学び、探究活動に取り組む。</p> <p>②・地域交流活動の運営に、生徒会を中心に生徒が参画する体制を作り、生徒の自己有用感を高める。 ・学校行事や部活動で成功体験を積み、学校への帰属意識を高める。</p>	<p>①校外交通安全指導の実施状況 年間重大交通事故件数 携帯・スマホマナー教室実施状況 サイバーパトロールからの報告件数 スクールカウンセラーによるカウンセリング、特別支援委員会における情報共有の実施状況 人権感覚プログラム、在り方生き方教育等の実施状況</p> <p>②地域交流活動や地域貢献活動に参加する生徒のべ人数 部活動定着率 学校行事に意欲的な生徒の割合</p>	<p>【安心・安全な学校づくりを進め、個に応じた支援体制、良好な人間関係づくりを促進できた】 ・重大交通事故件数0 ・PTA、生徒、教員の協働による交通安全指導を年2回のべ7日、12箇所実施 ・携帯・スマホマナー教室実施 ・サイバーパトロールからの報告件2件 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを6月から12月までに10回、のべ20名以上実施、生徒への周知活動も含めスクールカウンセラーの積極的な活用体制を促進 ・色覚についての研修会実施、教員の特別支援の知識向上を促進 ・全学年にて映画「めぐみ」視聴、「明日をめざして」を教材とした道徳教育実施</p> <p>【コロナ禍の中で地域交流活動がほぼ実施できず、行事運営に生徒が参加することもできなかった】 ・「部活動に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒58.9%（前年55.1%） ・「学校行事に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒82.3%（前年79.2%） ・「志木高校に入学して良かった」と回答した生徒86.0%（前年76.2%）</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・今年度、登下校時の重大交通事故は0件であったが、事故報告は10件以上となり、近隣住民からの注意喚起の連絡が定期的に寄せられている。また、SNSでの不用意な投稿によるトラブルも発生している。 次年度も引き続き自転車マナー向上を生徒に呼びかけるとともに、生徒、保護者と連携した全校的な交通安全指導に積極的に取り組んでいく。SNSのトラブル防止については、不適切な使用がもたらす影響について、生徒指導部、探究プログラム委員会等を中心に生徒自身が「自他を尊重する」観点から主体的に考えられるよう指導方法を検討していく。またスクールカウンセラー活用体制をさらに充実させ、個に応じた支援を行う。 ・新型コロナウイルスをはじめとした感染症や病に対する啓発を図り、生徒・保護者、教職員の保健意識を引き続き高めていく。健康と生命維持に必要な講習会を適切な時期に行う。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校行事を見直し、生徒の成功体験を増やす新たな方法を検討していく。</p>
4	<p><現状> ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的におこなっている。地域に根差した学校として、地域貢献活動を積極的にこなしている。</p> <p><課題> 地域とともに歩む学校となるためには、本校の教育力を地域に発揮し、開かれた教育課程を実現する必要がある。平成31年度に作成した「志木高未来予想図」の実行に向けた体制整備が課題である。</p>	<p>①志木高校を中心とした地域交流の輪を広げ本校の教育力を地域に発揮する。</p> <p>②志木高校の魅力づくりの推進</p>	<p>①・本校を会場とした地域交流活動「志木高倶楽部プロジェクト」を実施する。 ・HPを本校の教育活動や魅力を地域に発信・交流する場とするとともに、生徒、保護者にとって有益な情報交流の場として活用する。</p> <p>②・将来構想委員会を中心に引き続き、未来予想図の実現に向けた検討を進める。 ・教育課程委員会を中心に、令和4年度教育課程実施に向けた課題の整理及び対応策を作成を行う。 ・探究プログラム委員会を中心に生徒の課題に即した「総合的な探究の時間」の内容を検討する。</p>	<p>①「志木校倶楽部プロジェクト」実施状況及び生徒の参加状況 学校ホームページの更新、活用状況</p> <p>②教育課程委員会の開催、検討状況 探究プログラム委員会の開催、検討状況 「総合的な探究の時間」学習プログラム作成状況</p>	<p>【情報発信力を強化し、本校の魅力を効果的に発信した】 ・コロナ禍の中「志木校倶楽部プロジェクト」は実施できなかった。様々な媒体を使い積極的な魅力発信、地域交流に取り組んだ ・HPを活用し保護者通知、休校中の学習課題等を配信 ・学校説明会4回実施 ・学校説明会Web公開も含め、学校説明動画を21本配信 ・学校行事、部活動の活動報告等、HP更新をほぼ毎週行った。</p> <p>【学校の将来構想に基づいた教育課程編成ができた】 ・教育課程委員会7回実施、令和4年度教育課程の見直し、改善を行った。 ・探究プログラム委員会10回実施、「総合的な探究の時間」学習プログラム作成、各学年で目標を共有しクラスの実情に合わせ実施することができた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・今年度は新型コロナウイルスの影響で、地域交流活動、広報活動を年度当初の計画どおり実施することができなかったが、柔軟かつ臨機応変な対応により教職員一丸となり、様々な媒介をとおし本校の魅力を発信することができた。次年度は連携広報部を発足させ、コロナ禍の地域連携の在り方について検討を行い、令和元年度の成果の継続を図っていく。 ・今年度「総合的な探究の時間」学習プログラムについては、キャリア教育の更なる充実、進路指導部との連携に課題が残った。次年度は分掌再編成を行い、進路指導部を中心とした学習プログラム作成、実施を行い、多様な進路希望を持つ生徒一人ひとりの課題に即した学習プログラム開発を行っていく。</p>

学校関係者評価	実施日 令和3年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>※緊急事態宣言が発令されたことを受け、リモートにて開催</p> <p>・GoogleClassroomを活用し休校中の学びにつなげる取組みが行えており評価できる。 ・話し合い活動等が難しい状況下において、今年度の経験を踏まえ、次年度どのように主体的・対話的な学びを実施していくか工夫が求められる。 ・手探りの状況の中で実施し、効果的であったものを職員の中で共有し次年度以降に活かしてほしい。 ・ICTの活用については、一部の得意な教員ができるということではなく、教員全員が使えるシステムを目指してほしい。</p> <p>・三者面談を丁寧に実施した点、ICTを活用しPTAとの連携を図った点などは評価ができる。 達成度Aでも良かったのではないかと。 ・生徒が持つ将来へのビジョンに変化が見られたのかという検証があるとうよい。 ・他の項目も含め、全体的に達成状況に数値のエビデンスを記述しており、よくできていると思う。 ・進路実現に向けて基礎学力をしっかりとつけていくことが重要。学習習慣の定着をいかに図るか、各分掌が連携して取り組んでほしい。</p> <p>・SCとの情報共有体制が構築されてきている。更なる充実を期待している。 ・コロナ禍での生徒のメンタル面での変化が心配である。変化を共有していくシステムづくりが重要である。 ・コロナ禍で否応なしに社会の在り方が変わっていく中で、変化への対応が求められる、教員も生徒も「無理をしていること」に気づかないほど無理をしている面が少なからずあったのではないかと。</p> <p>・HPにおける学校紹介動画配信等は高く評価できる。中学生、保護者も安心感を持ったのではないかと。今後も工夫して行ってほしい。 ・「総合的な探究の時間」学習プログラムの次年度への課題としてキャリア教育の充実、進路指導部との連携を上げていく点が評価できる。教育課程を担当する教務と、出口の進路・キャリアがそれぞれ別々にPDCAサイクルを回し検証が止まってしまわないよう、連続性を意識し検証していくことが重要。</p>